



岐阜県退職公務員連盟

可児支部広報

令和5年度 第7号 11月28日



久々利城跡の見学、参加者大満足!!

秋季研修会を、11月25日(土)に右記のように実施しました。

久々利城跡は、発達した虎口に、大きな切岸という戦国城郭のモデルと言えます。城主久々利氏の権力の大きさが垣間見えます。

美濃国守護土岐氏の一族で、室町幕府の奉公衆であった久々利氏の本拠地です。天正11年(1583)に森長可に攻められ、落城したと伝わっています。

- ◆ 9:00 広見「鈴川」集合
バスに乗りし出発
- ◆ 9:20 可児郷土歴史館に着き
久々利城跡を見学
- ◆ 11:00 見学を終え、
可児郷土歴史館を出発
- ◆ 11:20 「鈴川」に到着
- ◆ 11:30 親睦会

◆大満足 その①

指導講師の先生の生き生きとした分かりやすい説明に満足

指導講師として招聘した可児市文化財課の松田先生は、体を張って、生き生きと説明され、本当に分かりやすく、最高の説明でした。大変博学で、質問に対しても丁寧に答えていただきました。松田先生のおかげで、枡形虎口や横矢、切岸、土橋、堀切等々について理解できました。本当にありがとうございました。



▲指導講師



▲入口での説明



▲枡形虎口での説明

◆大満足 その②

地形を活かした山城の姿が当時のまま残っていることに満足

美濃国守護土岐氏の一族で、康貞を祖とする久々利氏は、土岐三河守悪五郎を襲名し、室町幕府の奉公衆にも名を連ねました。その拠点となった城跡は規模が大きく、土塁を利用した枡形虎口、勾配が急な切岸、北側からの侵入を防ぐ堀切等が設けられています。天正11年に森長可に攻められ、森氏の支配下に置かれ改修されたと考えられています。戦国期末の山城の姿を今も留めています。



▲三の丸



▲二の丸



▲本丸



▲天空見張台



▲本丸からの眺め（南東方向）



▲本丸からの眺め（南西方向）

◆大満足 その③

森や竹藪だった所を整備してみえる城守隊の努力に満足

久々利城跡城守隊は40名程で組織されているそうです。森や竹藪だったところを切り拓いて、今の綺麗な状態を作るのに2年かかったそうです。

久々利城は自然の地形を活かして築城された、正に戦う山城です。縄張り(曲輪の配置、櫓などの建物、堀や土塁、虎口等、城の設計)や堀切等、城の構造が初めての人にもはっきりと分かりやすいものになっています。城守隊の皆さんは、山城の形がはっきり分かるよう、いつも入念に下草を刈ってみえます。本当に綺麗に整備していただき、見学者は感謝・感謝です。



▲登り口



▲櫓砦跡



▲二の丸へ



▲二重堀切

◆大満足 その④

小春日和の中、参加者全員が無事に完歩したことに満足

11月25日(土)の見学ということで、寒さ対策をしましたが、風も吹かず、小春日和の穏やかな一日となりました。

また、「山道を歩きますので(軽登山)、運動靴等でお越し下さい。」と、ご案内しましたので、怪我を一番心配していましたが、全員怪我も無く、転ぶことも無く、全員が無事に完歩し、下山することができました。

お陰で、その後の親睦会も楽しく交流することができました。



▲鈴川を出発



▲バスの中



▲可児郷土歴史館に到着



▲登り口へ



▲本丸に集合



▲鈴川での親睦会



秋季研修会は、参加者全員が大満足となる会となり、大成功でした。計画立案され、渉外等を担当された皆様に、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。今後も、会員の要望をより大切に、大満足となる研修会を実施していきたいと思ひます。ご支援・ご協力ありがとうございました。

